



図書館復旧ボランティア 活動報告

2022/3/28(月) - 4/28(木)

東北大学SCRUM

東日本大震災から11年が経った矢先に発生した福島県沖地震
ボランティア学生が立ち上がり、大きな被害に遭った附属図書館
の復旧作業に携わることで、図書館の早期再開に貢献しました。



図書館復旧ボランティア 活動概要

- 東北大学SCRUMは、令和4年福島県沖地震で被害を受けた東北大学附属図書館に支援を打診し、書籍整理のボランティア活動を企画・実施した。
- SCRUMは、関係者との連絡調整や参加者の管理などの運営事務を担った。
- 令和4年3月末から約1か月間、東北大学SCRUM、東北大学地域復興プロジェクト“HARU”に所属する学生など15名が活動した。



活動実績

SCRUM	HARU	Others	Total
8	3	4	15
※3/28(月)~4/28(木)のうち、土日祝日と参加者ゼロの日を除く19日間、15名が活動 (一日ごとの集計では延べ46名)			



活動実績

	SCRUM	HARU	Others	Total
3/28(Mon)- 4/1(Fri)	12	1	0	13
4/5(Tue)- 4/8(Fri) ※農学分館	7	2	4	13
4/11(Mon)- 4/15(Fri)	8	1	1	10
4/18(Mon)- 4/22(Fri)	3	0	2	5
4/25(Mon)- 4/28(Thu)	2	2	1	5
Total	32	6	8	46



活動内容

本館2号館

- 2F：おもに和雑誌
3F：おもに洋雑誌
- 散乱した雑誌を同じ種類ごとにまとめて通路に積み重ねる作業
- 書架に並べ直す作業

農学分館

- 2F（図書）
- 通路を空けるためにとりあえず本を書架に戻す作業
- 書架にいったん戻された本を請求番号順に並べ替える作業

本館2号館



農学分館





学生の参加理由

できることがある
ならば協力したい

サロン活動以外の
ボランティアにも
携わってみたい

普段使う施設への
恩返し

SNSの情報に接し
て

春休み

少し運動したい

本が好き

HARUの原点たる
活動



参加者の声（アンケートから）

- 一人でやると、黙々と作業をしなければならなかったので、きつかった。
- 雑誌は一つ一つが分厚く重いので、肩や膝にきた。
- 本が本の上に積み重なってしまってなかなか手の付け方が分からないところがあったり、古い本だとページがバラバラになりそうなものもあったので、慎重さも意識する必要があるかなり大変な作業だと実感した。
- 災害時（特に地震のとき）はものの下にはならないということを崩れた本が一面広がった図書館で悟った。
- 先を見据える重要性には気づいた。今回の活動において最後の方の活動への参加者が授業のはじまりと共に減っていった。そのことある程度覚悟していたものの、時間的な余裕はあったので、先を見て外部募集を始めるなどの対応を取るべきだったと感じた。
- 私は今まで、地震の被害を見て何ができたらいいのに、と思うことはあっても、実際に行動に移すことができなかった。自分がしたいことの受け皿がないから行動しないのではなく、したいという意思を伝えることや他の人に相談してみることで実現するということを学んだ。今後は考えるだけで終わるのではなく、人に話したりして外にアウトプットし、行動する勇気をもちたい。
- 今回の作業で、職員さんの支えがあって普段図書館を利用することができていると実感しました。いち早く復旧作業に取りかかってくださって感謝の気持ちでいっぱいです。

総括



- 企画や連絡調整を機動的に行ったことで、迅速に活動を開始することができた。運営に携わった SCRUMメンバーにとっては、他の活動にも活かすことのできる貴重な経験を得たと考えられる。
- 中心的に運営に携わった学生以外にとっても、SCRUMで緊急災害支援のボランティアコーディネートができるということを認識し、もしもの時には協調して災害救援の企画・調整を担ってみたいという意欲を刺激することができた。
- 初めてボランティアに参加した学生にとっては、ボランティアに対するハードルを下げ、自分のできる形で挑戦してみようというきっかけを与えることができた。
- 図書館への興味関心を高めることにも寄与したと考えられる。今回のボランティア活動についての対外的な発信のあり方などを検討していくことが望ましい。今後の展開については随時検討する。
- SCRUM内に災害救援部が設置されることで、より前向きな緊急災害支援体制が構築されようとしている。今回の経験が広く共有され、SCRUMにおける災害救援の取り組みをアップデートさせることが期待される。
- 他団体への募集について、今回に関してはこの規模で問題なかったが、授業開始後における参加者数の減少などを踏まえ、SCRUMと関係の深い団体への働きかけがあっても良かったと思われる。
- 参加者の達成感を高め、不安や疲労感を減らすための配慮が重要となる。なお、総括アンケートより、図書館の職員の皆様からの声掛けが励みになった部分が大いにあったことが分かっている。